

# 医療安全管理ニュースレター

日本医科大学千葉北総病院  
(第53号)

発行：令和5年12月1日(金)



医療安全の取り組みは第3者の目からも評価されています

～私立医科大学協会 医療安全相互ラウンドを受けて～

医療安全管理者 矢野 綾子

国内の私立医科大学30校が、「一般社団法人私立医科大学協会（以下、協会）」に加盟しており、私たち日本医科大学も加盟しています。この協会の目的は「私立医科大学の重要性に鑑み、教育、研究および経営に関する研究調査ならびに会員相互の提携と協力によって、私立医科大学の振興を図り、その使命達成に寄与し、もって我が国の医学および医学教育の進歩発展に貢献すること」とされ、様々な取り組みがされています。その一貫として、医療安全や感染制御に関する活動を評価する事業を行っています。

具体的な活動としては、協会側から私立医科大学に付属する病院として取り組まなくてはならない医療安全活動が「自己評価表」として示されます。私たちはその「自己評価表」をもとに、まずは自施設の現状を自己評価します。

その自己評価をもとに、協会が定めた組み合わせ病院と「相互ラウンド」を行います。

「相互ラウンド」というのは、実際にお互いの病院を訪問し合い、医療安全管理部門の職員との面接や部署訪問を通し、実際の活動状況などを評価しあうことで、お互いに改善点や優れている点などを指摘しあっています。

「医療安全活動」というのは、医療法に規定されている活動はもちろんのこと、これまで蓄積してきた医療事故に関する事例収集事業などから対策されてきたことや、患者安全に関する項目などが、病院で取り組まれているかを自己評価表の評価項目として取り上げています。例えば、自施設のインシデント報告数や職種別の報告件数などが確認され、適切な報告が組織内で行われているのかを評価されます。

また、患者誤認に関する取り組みや、転倒転落の対策に関する活動について評価されたりもします。適切なインフォームドコンセントに取り組むための仕組みが施設内に整備できているかなども評価対象とされます。

更に今年度からは、重点項目として医療の質に関する評価項目が加わり、更に医療安全として求められる活動が幅広く、“やらねばならないこと” “やるべきこと”が多岐にわたっています。

相互ラウンドは、活動評価という側面とともに、お互いの優れた活動を知ること、自施設の取り組みとして、取り入れる機会としても非常に有効です。

新型コロナ蔓延時には、組み合わせ病院を訪問することは難しく、Web会議やメールでの評価表のやりとりなどを通して、お互いの活動を評価してきました。しかし、百聞は一見に如かずで、自己評価表のやり取りだけではわからない現場の状況や、活動の具体的な内容を知ることはできませんでした。今年度から他施設訪問を再開することができたことは、自施設の活動を見直すだけでなく、他施設の優れた取り組みを取り入れるための大事な機会となります。

お互いの施設を訪問し、他施設の医療安全活動について、直接見たり、聞いたり、話をしたりすることで、得るものが大きいと実感しています。

医療安全活動が評価されるということは、厳しい目で自施設の医療安全活動を見直すための大事な機会を得るだけでなく、優れた活動を評価しあえる大事な機会でもあります。一朝一夕で医療安全文化を醸成することは難しいですが、常に学び続ける姿勢をもって患者安全に取り組まなければいけないと、心を新たにする機会として、私立医科大学医療安全相互ラウンドに取り組んでいきたいと思えます。



相互ラウンドの実施風景

# 患者誤認防止ポスターの取り組み

医療安全管理部 佐藤 健介

医療安全管理部は、患者さんや職員を含む医療に関わるすべての人達が信頼することのできる安全な医療環境を整える役割を担っています。

患者さんが医療を受ける際に誤った情報や手違いから生じるリスクを最小限に抑え、安心して治療を受けられる環境を作ることも活動の一環です。今回はその取り組みの一つである患者誤認を防ぐための「患者誤認防止ポスター」についてご紹介いたします。

患者さんの取り違えによる重大な医療事故は、その数は少ないながらも全国で報告されていますので、患者取り違え防止対策は医療安全の根幹となる取り組みの一つといえます。

これまで、患者誤認防止を呼び掛けるポスターを掲示していましたが、「誰が見てもわかりやすい」ということをコンセプトにして周囲の掲示物と比較しても目立つように、そして、患者さんと協力することの重要性を強調するためにポスターのデザインを刷新することにしました。

医療安全は一部の職員だけが取り組んでも意味がありません。そのため、多くの職員が少しでも医療安全に自覚的に関われるように職員からデザインを公募し、応募作品に対し全職員が投票するコンテストを開催しました。

患者さん向けと職員向けの2種類のデザインを募集したところ、多くの職員から応募が寄せられました。コンテストの結果、患者さん向け

のポスターは視覚的にわかりやすいデザインが、職員向けのポスターは職員が業務で意識しやすいデザインが優秀作品として選ばれました。



患者さん向け



職員向け

どちらのデザインも「入院支援室」の看護師が作成したもので、後日、院長より優秀作品として表彰が行われました。患者さん向けのポスターは外来受付や各病棟の受付などで見ることができます。また、職員向けのポスターは勤務場所に掲示してあります。



表彰式

ポスター掲示による注意喚起の呼びかけをはじめ、私達は様々な手法を組み合わせながら有効な患者誤認防止方法を模索し、安全な医療を提供できるように日々努めています。

今後も患者誤認ゼロを目指し、患者さんと一緒に協力しながら、当院の医療安全文化をより一層確かなものとし、根付いたものとするための方策を実行していきたいと思っております。みなさまのご協力をいただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 編集後記



今回は医療安全管理部より寄稿して頂きました。相互ラウンドは、他病院での取り組みを学べます。病院が違う視点で意見を頂く良い機会だと思います。ポスター募集は、職員に呼びかけたことで、安全に関する意識が向きました。「確認は大切」と一瞬で頭に入るポスターをありがとうございました。皆様、素敵な年となりますように！ 花澤みどり 記

### 【ご意見募集】

皆さまのご意見をお待ちしております。

電子メールアドレス

[h-newsletter@nms.ac.jp](mailto:h-newsletter@nms.ac.jp)

### 【お知らせ】

当院のホームページから閲覧できます。

ホームページアドレス

<https://www.nms.ac.jp/hokuso-h/>

### 【編集担当】

医療安全管理ニュースレター編集委員会

片山靖史(委員長)

金 徹	矢野 綾子	岩井 智美
花澤みどり	岡本 直人	大熊 康弘
石井 聡	岸 大輔	